

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	あったかさん21		公表日		R8年3月28日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		・安全にしっかり身体を動かせるような設定になるよう工夫している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	3	・業務が偏らないよう分担している。 ・1グループの人数を調整し、事故や怪我がないように、丁寧に扱われるようにしている	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		・x・oなど、見て解るよう、視覚支援を行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	1	3	・虫が多い為、療育前後にモップをかける等清掃している。 ・雨漏り箇所があり、対策をしている。	・年度末には、雨漏り修繕改修工事の着工が決定しているが、バケツなどが置かれていることで集中を欠いてしまうこともある。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		・痲痺時のクールダウンや、離脱などの際に別室で取り組めるようにしている。	・痲痺や離脱などに対応出来るスタッフが限られる事もあがるが、職員が連携し、お子様に寄り添う支援に努めていきたい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4		・全員で共有し、対応するようにしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		・個々への返答は出来ないが、全体へ返答し改善点などをお伝えするようにしている	・個別の返答が必要な場合に、十分な対応が出来ているか、返答になっているか等を悩むことがある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	1	3	・職員会議だけでなく、日ごろから意見やアイデアを出しやすい関係性を構築できるよう努めている	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4	・非常勤のST/O.T・相談支援員等に意見や助言・感想を頂いている。	・外部からの評価を実施したことがないが、今後は検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		・オンライン研修や、センターへの実習等、経験年数や内容に合わせて学べるようにしている	・オンライン研修や伝達講習などで、参加した者以外の学びにもつなげるよう努める。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		・適切に行っている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		・適切に行っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		・適切に行っている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		・適切に行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	1	3	・より共有しやすい様式を作成している。	・国や県などが提示する様式を基本に、改良を重ねながら使っている。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		・適切に行っている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		・職員間の経験の差や得手不得手が課題とならないよう、全体で立案している。	・それぞれの長所や強みをいかしつつも、安定・一定した質の高い療育を提供できるよう努める。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		4	・一定化した流れで安定するお子さんも多いので、グループや個々に合わせている。 ・グループ内でも教材は個々にあわせている	・お子様が飽きてしまわないよう留意しつつ安心感や見通しを与えられる設定であるよう工夫していく。

関係機関や保護者との連携	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4		・ST/OTと連携し、必要に応じ活動内容を決めている	・必要に応じ、評価などを実施しながら、発達段階や必要な課題を正しく把握するように努める。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		・全体で、打ち合わせをし、色々な状況を想定した支援について細かく決めている。 ・保護者への関わりなども話し合っている	・グループリーダーを中心として、全スタッフが関わっている。意見を出しやすい雰囲気を作り、よりよい支援につなげる。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		同上	同上
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		同上	同上
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		・適切に行っている。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		・担当職員への聞き取りや、療育参加の様子などを把握し、児発管が参加している。	・会議録を必ず全員で回覧し、話し合うようにしている。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	2	・平戸市と連携している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		・平戸市担当課、教育委員会と連携している ・教育支援会議等にも療育機関代表として参加し、発達特性への理解や支援について発言の機会をもっている。	・関係機関と連携し、スムーズな移行支援が出来るよう努める。 ・切れ目のない支援が受けられるよう、各所間の仲介に努める。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		同上	同上
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4		・ST/OT、センターなどと連携できている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		4		・療育の内容や時間などの都合上、他との関わりを持つことは難しい。同じグループで他の園の児と関われるようにしている。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		・母子通所なので、話す機会が作り易い。 ・質問に答えられるよう、打ち合わせなどで話をしておくようにしている。	・時間がとれず、なかなか話せないというご感想を頂いた。お子様を中心に言葉を交わせる利点とは別に、しっかり保護者の皆様の声を聴く機会も作るよう努める。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	3	・以前は行っていたが、現在は行っていない	・参加者が少なかったり、感染症等の問題で行っていなかったが、要望があれば今後の実施や内容について模索していきたい。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		・適切に行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		同上	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4		同上	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	2	2	・面談時間が短い為、事前提出で困り感を聞かせて頂き、回答するようにしている。	・時間が足りないというご意見や日頃から、助言を欲しいという声を頂いた。全職員が助言出来るよう研鑽を積むと同時に、必要に応じ児発管などが介入し対応していく。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	3	・以前は行っていたが、現在は行っていない	・参加者が少なかったり、感染症等の問題で行っていないかったが、要望があれば今後の実施や内容について模索していきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		・家族支援として、個別面談などで相談に応じている。必要に応じ、相談支援員の同席や学校での会議なども行っている。	・対応について、知らない方もいらっしゃるため、相談や面談などを利用して頂けるよう周知に努める。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	1	3	・文書や館内掲示で情報を発信しているが、SNSなどは連絡以外にはつかっていない。	・療育に集中しているので、SNSを運営する余裕がないこともあり、SNS発信はしていない。実際にお子様と保護者の方と関わられるので、そこで色々な事をお伝え出来るよう努め、満足感に繋げたい。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		・適切に行っている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		・個々に合わせ、無理のない方法や手段を考えて支援している。	・ご家庭や園でも出来るような意思表示・伝達のツールを提案出来るよう努める。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4		・療育の内容や時間などの都合上、他との関わりを持つことは難しい。
	非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		・適切に行っている。
46		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		・適切に行っている。	
47		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		・適切に行っている。 ・保護者の方が同伴されているので、医ケアのお子様もお預かりしている。	・お子様の状況や症状に合わせ、関係各所と連携しながら、安全な環境で療育をうけられる機会を提供出来るよう努める。
48		食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		4	同 上	同 上
49		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		・適切に行っている。	
50		こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		4	・適切に行っているが、保護者の皆様への周知は足りていなかった。	・保護者の皆様へ、解り易く提示し、周知していく。
51		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		・適切に行っている。	
52		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		同 上	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4		・契約時に、お客様の特性や行動などを聞かて頂き場面を想定しながら、ご理解頂いている。	・気になる事があった時は、小さな気づきでも、児発管や相談支援員・第三者委員に相談して頂くよう伝え、苦情ボックス等を設置し、声を聴かせて頂くよう努めている	